

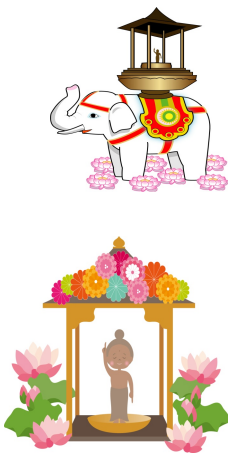
じょうこうじ 掟光寺だより

令和5年
5月号

行事案内

●5月8日(月)
「花祭り・宗祖報恩講」

13時30分から



しやくそんしゅつせい
釈尊出生のはてな

「お釈迦さまは右脇から
生まれました?」

花祭りはお釈迦様のお誕生をお
祝いする祭事です。お釈迦様は今
から2500年前に現在のインド
でお生まれになりました。

お釈迦様の生涯を8つに分けた
「八相成道」によれば、お釈迦さ
まは兜率天という菩薩の世界から
六本の牙をもつ白い象になりました
ちの世界に降りて来られました
(降兜率)。

下りてこられたお釈迦さまはお
母さんであるマアヤ夫人の右脇よ
り入り、胎内に宿り、マアヤ夫人
は懐妊したと言われています
(託胎)。

マアヤ夫人がお産のためにご自
身の實家に帰る途中、ルンビニー
園で休憩をされた時、真つ赤に咲
き誇るアソーカの樹の一枝を折ろ
うとした右手を挙げた際、マアヤ
夫人の右脇から男の子が生まれま
した。(降誕)。

なぜ生まれてくる際「右脇から
生まれました」と表現されているの
でしょうか?

【インドとカースト制度】

これを知るためにはインドの歴
史を知る必要があります。

今から3000年前に現在のウク
ライナからインドへ侵略してきた
白人遊牧民がいました。彼らは自
らをアーリア人と呼び、インドに
いた原住民を侵略しました。アー
リアとは高貴な者という意味です。
彼らは「宗教」を使って原住民を
支配しました。簡単に言えば、

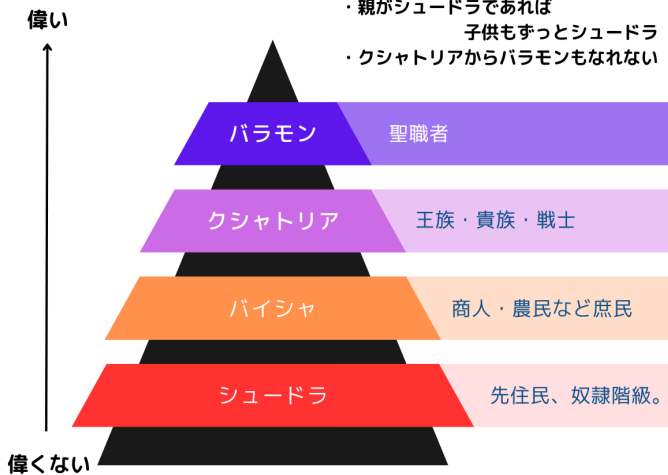
「実はこの世の出来事はすべて神
さまが起こしているものである。
私たちアーリア人はその神さまと
つながる事ができる。私たちの言
う通りにすれば戦いに勝つ力など
優れた力を得ることが出来るから
私たちを敬いなさい。逆に私たち
に逆らえば神さまが怒りますよ」
という感じでした。そして、長い時
間をかけてその教えがインドに広
まっていたわけでした。

この神さまと直接つながることが
できるアーリア人をバラモンと呼
んだので、この宗教をバラモン教
と呼びました。

バラモン教には「人間は巨人の身
体から生まれた。巨人の口からは
バラモンが、腕からはクシャトリ
アが、脚からはバイシャが、つま
先からはシュードラが生まれた」と
いう教えがあります。そこから、
バラモンは口から生まれたので考
えたり教えたりする役目を担い、
クシャトリアは腕から生まれたの
で、政治や社会を動かす役目を担
い、バイシャは脚から生まれたの
で生活の基盤を支える役目を担い、
シュードラはつま先から生まれた
ので全員の下で奴隷のように奉仕
する役目を担うとされました。
これを「カースト制度」といいま
す。(左下図参照)

カースト制度

全ての人間は親と同じ身分となる。
・親がシュードラであれば
子供もずっとシュードラ
・クシャトリアからバラモンもなれない



この考えから、お釈迦さまは王
族の息子として生まれたので、腕
である右脇から生まれたと表現さ
れたわけです。

【補足】

このカースト制度はバラモン以
外の身分の者に不満が溜まり、や
がてはアーリア人同士で分裂が起
こり、たくさん新しい国や宗教
ができました。その中で台頭して
きたのがお釈迦さまの説かれた
「仏教」です。バラモン教の
宿命論(生まれながらにして運命
は決まっている)に対して、仏教
の業報論(人は自らの行いで運命
を変えられる。どんな人でも幸せ
になれる)は多くの人の心の拠り
所になったわけです。